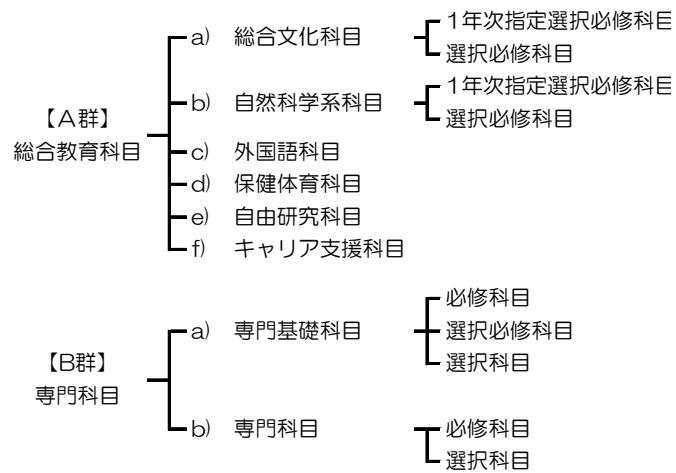


《2015年(平成27年)度入学生用》

## 建築学部

### 授業科目履修課程表

#### ◆教育課程◆



## 建築学部で何を学ぶか

建築学部は、工学をはじめとする人文科学、社会科学や芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育を実施している。学生諸君が人間と社会、科学技術を多様な視点から捉える目を養うためである。そして、建築学部は、学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し、実践的かつ総合的な教育により伸ばすことで、建築と都市環境の創造・再生、および、持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に担う専門家を養成する。そのための素養を十分に身につける教育プログラムも準備している。

また、新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し、学生が今後求められる専門家となるためには、現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となる。そのため、建築学部は、学生が実験・実習・演習などによる課題解決の経験を通じ、これらの素養を十分に養えるよう図っていく。さらに、実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることも重視し、学生にインターンシップによるものづくりの現場への参加機会や、実社会で活躍している講師による特別講義の受講機会などを設けている。学生は、それにより、広範な知識を身につけ、社会において果たすべき建築の専門家としての役割を理解することができるようになるだろう。

建築学部は、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科による3学科体制により運営されている。

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がもっと快適に住み続けられるための「まち」の新しい姿について学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を獲得する。多角的な「まち」の将来像を構想し、実現していく素養を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築学科では、安全で快適な生活の場の構築を目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。学生は、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけ、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築デザイン学科では、単に美しいだけではなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することを目指す。さらに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

このように、学生が、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて、卒業後に、新時代の課題を適切に判断し、身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネーターやマネジメントなどの役割）を果たせるような仕事に就くことを、建築学部としては目指している。活躍する分野としては、建築の基本分野となる建築設計、建築施工全般などに加えて、資源や環境の保全、持続可能なまちづくりや都市再生、防災、高齢社会に対応した生活環境づくりなど、いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野を想定している。

さらに、本学大学院進学により、多様な研究分野が同じ学部の中に共存しているメリットを最大限に活かしながら、学生自身が複合的な新しい発想に基づく研究領域の創造を積極的に進めることを期待している。こうして、学生は新しい得意分野の位置づけを確立しながら、専門性を高めることを目指せるだろう。